「愛し　ふるさと　安来」　解説

１桜色の社日山　　　中海に浮かぶ十神山

ハガネの町も誇らしく　心豊かに栄え立つ

唄声も高らかに

光抱いて　羽ばたかん

解説（１番）

毎年春には社日公園の桜を見ながら家族でお弁当を食べるのが何より楽しみでした。

そして夏、中海で十神山を眺めながら盛大に打ち上げられる花火大会。

お盆の最終日には精霊流し、ご先祖様に感謝の気持ちを込めて合掌し、家族や親族たちと月の輪まつりや宴を楽しんだ日々がとっても懐かしいです。

日立金属を中心に栄えてきた安来、市民の皆さんもたくさんの恩恵を受けてこられたことと思います。

高らかに響く安来節は毎年この地で優勝大会が開催されます。この素晴らしい文化をいつまでも唄い、語り継ぎ、次の世代に継承されてこれからも益々発展しますようにという想いを込めています。

２歴史の薫る月山に　　平和の陽光（ひかり）を浴びながら

　希望のせせらぎ富田川　　四季の実りに満ちあふる

気高き匠の技があり

美しき心　受け継がん

解説(２番)

広瀬町の月山には、尼子氏が残した歴史が深く刻まれています。

太鼓壇には、山中鹿介の銅像が立てられています。

月山富田城跡には、戦国時代の様子を綴った解説板もあり、今でも強く当時の歴史が感じられるという事を表現しました。

富田川のやさしいせせらぎには、広瀬町の未来へ向けて、更に希望を抱き、明るく元気に益々発展していく様子を込めました。

更に「たたら」という伝統技法による製鉄が盛んに行われ、金屋子神が祀られている金屋子神社は現在でも全国の製鉄業者の皆様から篤い信仰を受けていることでも知られています。この町には素晴らしい匠の技が継承され続けていることを次世代を担う子供たちにも知ってもらいたいという強い願いを表しています。

３神話の里にたたずむ　比婆山に見守られ

清らに流るる伯太川　息吹の鼓動に恵み在り

いにしえの教え　語り継ぎ

　　　　　母なる大地に　輝かん

解説（３番）

古事記では、天と地が開いたお話からはじまり、次々と神様がお生まれになられますが、最後に「イザナギノミコト」と「イザナミノミコト」という夫婦の神様が登場され、この二人の神様により日本の国が生まれます。私たちの大切な母イザナミノミコトさまを伯太町の比婆山に埋めて祀られている事を表しています。伯太町には母の里と書いて母里という地名がありますが、まさにこの比婆山は、たくさんの神様をお産みになられたイザナミノミコトさまそのものなのですね。これらの教えを語り継ぎ、次世代を担う子供たちや全国全世界の皆様に知っていただけたらこんなに嬉しいことはありません。この伯太町は、神様から頂いたたくさんの恩恵が詰まった、愛にあふれた温かい町なのです。ここで生まれた人たちはきっとイザナミノミコトさまの家族なのではないでしょうか・・・という想いを込めています。

* ここに生まれて　ここに生きる

手をつないで　空を見上げて　歩いてゆこう

愛し　ふるさと　やすぎ

解説（１～３番のサビ）

安来、広瀬、伯太それぞれの町の良さをあらためて知る中で、深い歴史や高い文化、情緒あふれる町並みや大自然に恵まれた素晴らしい生活環境があるという事が再確認できました。この町で生まれて、この町で精一杯生きている私たち一人ひとりが今こそ立ち上がり、手と手をつなぎ、そして心と心を繋ぎ合わせて更なる飛躍のために一歩一歩胸を張って前進していきたいという希望の想いを表しました。

そして安来、広瀬、伯太の三つの町が一つになって新安来市発足１０周年を喜び合う気持ちと、市民の皆様お一人おひとりの益々のご健康と御発展を祈念したいという気持ちを表しています。